ECHIGO-TSUMARI ART FIELD

限界芸術百選プロジェクト #2

関係性の美学

かんけいせいのびがく

2014年11月15日[土]～2015年3月29日[日]

水曜休館　年末年始12/29～1/3休館

会場／まつだい「農舞台」ギャラリー　新潟県十日町市松代3743-1
開館／10:00～17:00(最終入館16:30)　入場料／大人600円、こども(小中学生)300円
主催／NPO法人越後妻有里山協働機構　助成／芸術文化振興基金

西尾純一 ― 西尾美也

小野田賢三 ― 小野田藍

吉村芳生 ― 吉村大星

Relational Aesthetics

November 15,2014 ⇒ March 29,2015

ECHIGO-TSUMARI ART FIELD

MATSUDAI NO BUTAI

農舞台 MATSUDAI NO BUTAI

関係性の強調と錯綜

文＝福住廉

▼思想家の鶴見俊輔さんは限界芸術を「原始的なもの」であると言います。それは純粋芸術でも大衆芸術でもなく、しかし純粋芸術にも大衆芸術にもなりうるような、ある種の「母胎」であると。だとすれば限界芸術は現代美術と明確に峻別できるージャンルではなく、一見するとわかりにくいかもしれませんが、現代美術の基底にも隠されているはずです。

▼本展は、このような限界芸術と現代美術の関係性を探り出そうとするものです。どのような手段によって？　もちろん、限界芸術の担い手と現代美術のアーティストによって。しかも、今回はこの関係性をより際立たせるために、もうひとつの関係性に重ね合わせてみました。それは親子の関係性です。

▼西尾美也さんは衣服をもとにさまざまなコミュニケーションとクリエーションを生み出す、気鋭のアーティストです。父親の西尾純一さんはミシンの部品をつくる職人でしたが、リタイアした今は自宅にF1サーキットのミニチュア盤を自作したり、オリジナルの映像作品をYOUTUBEに大量に投稿したり、精力的に制作活動を繰り広げています。小野田賢三さんは映像やサウンドアートを制作するベテランのアーティストで、ベルリンをはじめヨーロッパでも発表しています。息子の藍くんは美大を卒業した後、「ART　NOW　JAPAN」というフリーペーパーを発行しながら、最近になって作品を発表しはじめました。そして吉村芳生さんは、鉛筆で自画像を毎日描いたり、新聞紙や金網を丸ごと描き写したり、誰もやらなかったことを延々とやり続けてきた驚異のアーティスト。その一人息子である大星くんは、芳生さんと同じ手法によって、彼が愛する野良猫を正確無比に描き出しています。

▼はたして、これらの親子たちは、どちらが限界芸術でどちらが現代美術なのか？ この問いに厳密に答えることがバカバカしくなるほど、限界芸術と現代美術の関係性は、親と子の濃密な関係性によって上書きされつつも、同時に大いに錯綜されるでしょう。そのとき、いったいどんな「芸術」が浮かび上がってくるのか？ 90年代以降に現れた観客参加型のアートの系譜をではなく、このきわめて実験的なプロジェクトをこそ、文字どおりの意味で「関係性の美学」と呼びたいと思います。

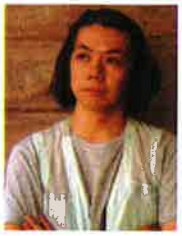
Relational Aesthetics

ECHIGO-TSUMARI ART FIELD

西尾純一

1951年11月8日、大阪市北区で出生。さそり座。ミノルタに勤務した後、「西尾工作所」として工業用ミシン部品の製造業を営む。現在はセミリタイアし、好きな映像作りやゴルフ、ホビールームでの制作を日々楽しんでいる。子どもと遊ぶ時は子ども以上に遊ぶことを楽しみ、シルバニアファミリーの家、動く射的ゲーム、等身大のマイケル・ジョーダンのパネル、対戦型ゲームの筐体など、息子が欲しいおもちゃは何でも自作。いまも孫と遊ぶのは一番上手い。

西尾美也



1982年奈良県生まれ。2011年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現領域博士後期課程修了。文化庁芸術家在外研修員等を経て、2015年奈良県立大学専任教員に就任予定。装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目したプロジェクトを国内外で展開。ファッションブランドFORM ON WORDSを主宰する他、西尾工作所ナイロビ支部やアラカワ・アフリカ実行委員会を結成し、アフリカと日本をつなぐアートプロジェクトを企画・運営している。

小野田賢三

現代美術作家。1961年群馬県前橋市生まれ。同市在住。NTT（株）にてコンピューター技術者として勤務した後、40歳で現代美術作家としてのキャリアをスタートさせる。映像作品やサウンドアート作品を手掛け、光や影、色彩や音といった空虚な素材を用いて「ある／ない」を判断する認識の不可思議さを探求している。主な展覧会に「静寂と色彩—月光のアンフラマンス」（川村記念美術館、2009年）、「PARKHAUS」（Kunsthalle Dusseldorf、2008年）など。

小野田藍

1988年群馬県前橋市生まれ。同市在住。2014年武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科卒業。2012年から手書き文で日本のアーティストを紹介するフリーペーパー『アートナウ・ジャパン—日本のアーティスト100人』を制作している。また、『現代詩手帖』（思潮社）や『白川昌生ダダ、ダダ、ダ』（アーツ前橋編、水声社、2014年）にもいくつかの文章を寄せている。

吉村芳生

1950年山口県生まれ。山口芸術短期大学卒業。広告代理店に勤務後、創形美術学校で版画を学ぶ。主な展覧会に「吉村芳生展　730日の自画像」（下関市立美術館、1984年）、「六本木クロッシング2007・未来への脈動」（森美術館、2007年）、「吉村芳生展とがった鉛筆で日々をうつしつづける私」（山口県立美術館、2010年）など。2013年、逝去。

吉村大星

1992年山口県生まれ。中学卒業より制作を始める。主に色鉛筆を用いて、野良猫をモチーフにした絵を描く。主な展覧会に「それが由来するイメージの起源」（画廊Door、2012年）、「未来の体温」（山本現代、2013年）。山口市美術展覧会大賞受賞。

限界芸術百選 プロジェクト#2　かんけいせいのびがく

関係性の美学

2014年11月15日[土]～2015年3月29日[日]

水曜休館　年末年始12/29～1/3休館

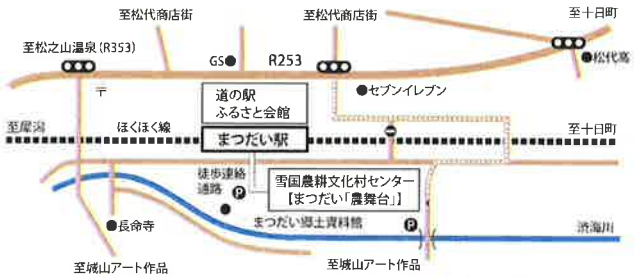
会場／まつだい「農舞台」ギャラリー　新潟県十日町市松代3743-1
開館／10:00～17:00（最終入館16:30）　入場料／大人600円、こども（小中学生）300円
主催／NPO法人越後妻有里山協働機構　助成／芸術文化振興基金

［施設概要＆アクセス］

まつだい「農舞台」（まつだいのうぶたい）

オランダの建築家グループMVRDV設計(2003)。ギャラリーのほか、常設のアート作品、レストラン、ミュージアムショップが併設されています。
1～3月にはまっ白な雪景色もお楽しみいただけます。

〒942-1526 新潟県十日町市松代3743-1 まつだい「農舞台」 Tel:025-595-6180
東京方面から
［電車］JR上越新幹線「越後湯沢」＝北越急行ほくほく線「まつだい」＝徒歩3分
［車］関越自動車道塩沢石打I.C.＝約1時間
新潟方面から
［電車］JR上越新幹線「越後湯沢」＝北越急行ほくほく線「まつだい」＝徒歩3分
［車］関越自動車道越後川口I.C.＝約1時間



「大地の芸術祭の里」HP　www.echigo-tsumari.jp

「里山の限界芸術サークル」Facebook　www.facebook.com/satoyamanogenkaigeijutsu

農舞台 MATSUDAI NO BUTAI